



## 『ノートルダム・ジャパン・ボウル 2009』について

『ノートルダム・ジャパン・ボウル 2009』は、1934年(昭和9年)にポール・ラッシュ立教大学教授らによってアメリカンフットボールが日本に普及されて以来75周年を迎えることを記念し開催いたします。本大会では、日本代表チームがノートルダム大学(米国インディアナ州サウスベンド=ジョン・ジェンキンス学長)の卒業生によるチームと対戦いたします。今般、120年以上の伝統を誇り、米国カレッジフットボール界においての象徴ともいわれる名門ノートルダム大学を迎えることにより、『ノートルダム・ジャパン・ボウル 2009』が、これまでの75年の歩みの集大成として、さらに次なる100周年に向けたキックオフを飾るに相応しい大会になるものと期待しております。

### 【大会開催概要】

- 1)大会名称: 英文表記 Notre Dame Japan Bowl 2009  
                  日本文表記 ノートルダム・ジャパン・ボウル 2009
  - 2)日 時: 2009年7月25日(土) / キックオフ時間未定
  - 3)場 所: 東京ドーム
  - 4)対戦カード: 日本代表 対 ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジェンズ”  
                  ※NCAA(全米大学体育協会)規定下では現役選手による国際試合は実施できない事  
                  から卒業生により編成
  - 5)主 催: 社団法人 日本アメリカンフットボール協会
  - 6)後 援: 読売新聞社
  - 7)チケット発売: 4月発売開始予定
- ◆大会オフィシャルサイト: URL: [www.americanfootball.jp/ndjb](http://www.americanfootball.jp/ndjb)

## ノートルダム大学(University of Notre Dame)

米国インディアナ州サウスベンド近郊にあるノートルダム大学は、ローマ・カトリック教会によって1842年に創立された私立大学である。学部生約8千名、大学院生は2千名で、USニュース&ワールドリポートによる大学総合ランキングで全米トップ20以内に毎年位置しており、米カトリック教会創設の大学としては最も高い学業レベルの名門大学である。

スポーツの名門校としての知名度は、同大学伝統のアメリカンフットボールと『ファイティング・アイリッシュ』のニックネームと共に、米カレッジフット界の象徴として不動の地位を得ている。1887年に開始したフットボールの通算勝利数824勝は、ミンガン大学(869勝)に次ぐ第2位(07年終了現在)。全米優勝11度、全米大学最優秀選手賞のハイズマン杯受賞者7名、48名に及ぶカレッジ名誉の殿堂入りメンバーなど、輝かしい歴史を証明するエピソードは枚挙に暇がない。

最近の優勝は1988年と、近年の人気と共に厳しくなったシーズン日程の影響を受けてタイトルから遠のいているのが現状だが、その伝統と実績の高さから、独立校(※1)ながら一定の条件を満たせば新年の4大ボウルのいずれかに出場する権利を得る特別扱いを受けている。1991年からNBCテレビが同大のホームゲームを独占契約で中継し続けている破格の待遇もその人気の裏付けだが、今季2015年までの契約延長が発表されて大きな話題を呼んでいる。

※1 NCAA1部A所属の120チーム中、116校はそれぞれ11のカンファレンス(連盟)に加盟しているが、ノートルダム大学、陸軍士官学校、海軍兵学校などは独立校としてカンファレンスに所属していない。

■チーム創設: 1887年

■ホームスタジアム: ノートルダム・スタジアム(80,795人収容)

■現ヘッドコーチ: チャーリー・ワイズ(5年目、29勝21敗)

■2008シーズン: 7勝6敗(ハワイボウル勝利)

■通算成績: 831勝284敗42分(勝率 .736)

■ボウルゲーム成績: 14勝15敗

■全米王者: 11回(1924、1929、1930、1943、1946、1947、1949、1966、1973、1977、1988)

■ハイズマン賞受賞者: 7名

ティム・ブラウン(1987年)/ジョン・ヒュアート(1964年)/ポール・ホーナン(1956年)/ジョニー・ラットナー(1953年)/レオン・ハート(1949年)/ジョニー・ルージャック(1947年)/アンジェロ・バーテリ(1943年)

■主なOB:

ジョー・サイズマン(在学1968~1970、元ワシントン・レッドスキンス QB)

ジョー・モンタナ(在学1975~1978、元サンフランシスコ・49ers/カンサスシティ・チーフス QB)

ティム・ブラウン(在学1984~1987、元オークランド・レイダース WR)

ジェローム・ベティス(在学1990~1992、元セントルイス・ラムズ/ピッツバーグ・スティーラーズ RB)

ジャスティン・タック(在学2001~2004、現ニューヨーク・ジャイアンツ DE)

ブレイディ・クイン(在学2003~2006、現クリーブランド・ブラウンズ QB)

■その他トピックス:

・ルディ:

後に映画化された伝説の選手、ダニエル・"ルディ"・ルティガー。幼い頃からファイティング・アイリッシュでプレーすることを夢見続けたルディは、26歳、4度目の挑戦にしてノートルダム大への入学を認められる。その後、憧れのファイティング・アイリッシュ入りを果たしたルディは、体格、才能といったあらゆる障害をはねのけ、4年生の最終戦で2プレーのみ DE として出場を許された。最後のプレーでサックを決めたルディは、歴史あるノートルダム大史上唯一、チームメイトに肩車をされてフィールドを去る選手となった。

・タッチダウン・ジーザス:

ノートルダム・スタジアムの片側のエンドゾーンを見下ろすキリストの壁画。この絵はスタジアム横の図書館の壁に描かれており、キリストが大きく両手を上にあげている姿がタッチダウンのシグナルに見えることから、この呼び名がついた。

・勝負のグリーン:

ノートルダム大のホームユニフォームは通常ネイビーだが、ここ一番の試合では、グリーンユニフォームを着用する。過去には、後半にネイビーからグリーンジャージに着替えて登場することもあった。ホルツ・ヘッドコーチ時代には、アウェイの白地のユニフォームに、グリーン文字を使用したこともあった。

### 【モノグラムクラブについて】

モノグラムクラブとは同大のアスレチック・デパートメントが統括運営するスポーツ団体(男女とも13団体ずつ)の活動を支えるためにフットボール、ベースボール、バスケットボール、そして陸上競技の4団体を中心になって1898年に設立された支援組織で、現在その活動は数多くのOBが中心になって運営されている。ノートルダム大学で活躍中のアスリート生らの奨学金はもとより、大学内にあるスポーツ施設などは、このモノグラムクラブによる基金によってまかなわれている。なお、現在このモノグラムクラブのプレジデントを務めているのは、在学時にオールアメリカン守備バックとして活躍し、1983年卒業後にプロフットボールNFLのシカゴ・ベアーズ、NYジャイアンツでそれぞれスーパーボウル優勝メンバーとなったデイブ・デュアソンである。



## ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジェンズ”

### ヘッドコーチ：ルー・ホルツ(Lou Holtz)

ノートルダム大学レジェンズチームを率いることになったルー・ホルツは、1986～1996年に同大を率い、1988年の全米優勝に導いた名伯楽である。

ケント州立大学でラインバッカーとしてプレーした後に、1969年にウイリアム&メアリ大学でヘッドコーチ就任。72年からノースカロライナ州立大学、1977年からアーカンソー大学、1984年からミネソタ大学と渡り歩き、この間14年間に116勝65敗5分、ボウルゲーム出場12度(6勝4敗1分)の戦績を評価されてノートルダム大学の第25代ヘッドコーチとして迎えられた。

ノートルダム大学での11シーズンは100勝30敗2分、9度のボウル出場(5勝4敗)。1987年には同大史上7人目となるハイズマン杯 WR ティム・ブラウンを育て上げ、翌年全米優勝と輝かしい“ホルツ・エラ”を築き上げた。

ノートルダム大学史上二人目となる100勝コーチとなって勇退した際には、同大伝説のコーチ、ヌート・ロックニー(1918～30年)の105勝を上回ってしまうことをあえて避けたのではないかとの憶測も飛び交ったが、遂にこの件については言及しないままだったことも、現在にいたるホルツ人気の一端を担っている。

1999～2004年には南カロライナ大学の再建のためにカレッジ・コーチに復帰。就任1年目に自身初となるシーズン全敗の屈辱を味わったが、翌年8勝4敗と見事なカムバックを果たし、同大でのキャリアは33勝37敗、2度のボウル出場(2勝)となった。

生涯記録は249勝132敗7分、ボウルゲーム出場22回(12勝8敗2分)。1977年、1988年に全米最優秀コーチ。1972年、2000年は所属カンファレンスのコーチ・オブ・ザ・イヤーに選ばれた。NCAA史上、6校でボウルゲーム出場を果たした唯一のヘッドコーチであり、4校を全米ランクトップ20に導いたのも史上初である。全米大学オールスター戦のジャパンボウルでは、3度の来日経験がある。

今2008年5月1日にカレッジ名誉の殿堂入りが決まり、同大48人目、コーチとしては6人目のホール・オブ・フェイマーとなった。

1937年ウエストバージニア州フォーランズビー生まれ、71歳。長男スキップは現在、東カロライナ大学のヘッドコーチを務めている。

コーチ引退後はCBSスポーツのカレッジフットボール・アナリストとなり、現在はスポーツ専門チャンネルESPNでカレッジフットボール・スタジオアナリストを務めている。



■ヘッドコーチ歴:

- 1999~2004年 サウスカロライナ大(33勝 37敗、ボウルゲーム出場 2回 2勝)
- 1986~1996年 ノートルダム大(100勝 30敗 2分、ボウルゲーム出場 9回 5勝)
- 1984~1985年 ミネソタ大(10勝 12敗、ボウルゲーム出場 1回 1勝\*)
- \*すでにノートルダム大学のヘッドコーチ就任が決まっていたためボウルゲームはコーチせず
- 1977~1983年 アーカンソー大(60勝 21敗 2分、ボウルゲーム出場 6回 3勝 1分)
- 1976年 ニューヨーク・ジェッツ(NFL)(3勝 10敗 \*シーズン途中で辞任)
- 1972~1975年 ノースカロライナ州立大(33勝 12敗 3分、ボウルゲーム出場 4回 2勝 1分)
- 1969~1971年 ウィリアム&メアリ大(13勝 20敗、ボウルゲーム出場 1回 1敗)

■カレッジフットボール戦績: 249勝 132敗 7分(6校、33シーズン)

■全米王者: 1988年 ノートルダム大(12勝 0敗)

■ボウルゲーム出場: 22回(12勝 8敗 2分け)

■荣誉:

- 2008年 カレッジフットボール・ホール・オブ・フェーム入り
- 2000年 SECコーチ・オブ・ザ・イヤー
- 1988年 ポール・"ベア"・ブライアント賞(全米コーチ・オブ・ザ・イヤー)
- 1977年 全米コーチ・オブ・ザ・イヤー
- 1972年 ACCコーチ・オブ・ザ・イヤー

## ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジェンズ”

### コーチングスタッフ

#### 【オフェンス】

##### ティム・ブラウン(Tim Brown)

###### 担当: ワイドレシーバー

ノートルダム大ではオフェンス、キックリターンなどを総合した総獲得距離 5,024 ヤード(1試合平均 116.8 ヤード)、22TD を獲得。レシーブでの 2,493 ヤードの獲得では、当時のチーム記録を樹立した。最終学年となった 1987 年には、ワイドレシーバーとして史上初めて全米大学最優秀賞のハイズマン杯に輝いた。1988 年の NFL ドラフトでは、全体 6 番目の指名でロサンゼルス・レイダース(現オークランド・レイダース)入りを果たし、ルーキー・イヤーからキックオフリターンで NFL をリードするなど、活躍を見せた。レイダースで 16 シーズン、タンパベイ・バッカニアーズで1シーズンと 17 年に渡る輝かしい NFL キャリアでは、9 度のプロボウル(NFL オールスター戦)選出、引退時 NFL 歴代 2 位となる 14,934 ヤードのレシーブ、1,094 レシーブ(同歴代 3 位)、100TD(同歴代 3 位タイ)など、数々の記録を打ち立てた。ブラウンは 1989 年と 1991 年に、レイダースの一員として、NFL プレシーズン戦「アメリカンボウル」で来日している。

##### レジー・ブルックス(Reggie Brooks)

###### 担当: ランニングバック

最終学年となった 1992 年に 1372 ヤード(同大史上 3 位)、平均 7.6 ヤード(同大1位)のラッシング記録をマークして、全米大学最優秀選手賞のハイズマン杯投票で5位(同年受賞者はジーノ・トレッタ:マイアミ大 QB)となる実績で、1993 年 NFL ドラフト 2 巡(全体 45 位)指名でワシントン入り。そのルーキー・イヤーに 1063 ヤードを走る活躍で脚光を浴びた。1996 年に NFL キャリアを終えて、現在はノートルダム大学のモノグラムクラブ、フットボール卒業生クラブのマネージャーを務めている。

##### トニー・イエロビッチ(Tony Yelovich)

###### 担当: オフェンスライン

アリゾナ大(1977~1979 年)、チューレーン大(1980 年~1983 年)、スタンフォード大(1984~1985 年)でオフェンスラインコーチを務めた後、過去 20 年以上に渡り様々な役割でファイティングアイリッシュを支えている。1986 年にノートルダム大学のオフェンスラインコーチに就任。その後、1991 年から高校生をチームへと勧誘するリクルーティング・コーディネーターに就任するまで、レシーバー、タイトエンドなどのポジションコーチを歴任した。1994 年からはチーム運営側に移り、現在は大学のアシスタント・アスレチックディレクターとして、試合運営全般を統括している。

## 【ディフェンス】

### ゲーリー・ダーネル(Gary Brent Darnell)

#### 担当: ディフェンスコーディネーター

オクラホマ州立大で LB として活躍し、大学最終学年時の 1969 年にはオールビッグ 8(現ビッグ 12)選出。同大卒業後に母校でコーチ見習いを始め、1971 年に LB コーチ就任して以来、4 校でのヘッドコーチ(内 2 校は暫定)経験を含め、一貫してカレッジ界で守備畑一色の 37 シーズンを過ごした。ボウルゲーム経験は 12 回に及ぶ。

ノートルダム大には 1990~1991 年の 2 シーズンにホルツ・コーチのスタッフとして参加し、それぞれオレンジボウル、シュガーボウル出場にファイティング・アイリッシュを牽引。1992 年からは 2007 年ワールドカップ川崎大会でチーム USA を率いたジョン・マコヴィック・ヘッド率いるテキサス大スタッフに参加した経験を持っていることで、日本代表の実力を知るコーチからの情報収集役も担当することになりそう。1948 年 10 月 15 日、アーカンソー州ウォルドロン生まれ、60 歳。

### ビル・ルイス(William J. Lewis)

#### 担当: アシスタント・ヘッドコーチ/ディフェンスバック

東ストラウズバーグ大(ペンシルバニア州)で QB として活躍。卒業後、母校アシスタントを経て、1966 年に名門ピッツバーグ大守備バックコーチに就任以来、昨 2007 年にコーチ業から引退するまで、守備バックのスペシャリストとして手腕を発揮してきた。

この間、ワイオミング大、東カロライナ大、ジョージア工科大でヘッドコーチ経験を含めて、カレッジ・コーチとして 35 シーズンで 15 ボウル出場。1996~2004 年の 9 シーズンには、プロフット NFL のマイアミ・ドルフィンズの守備バックを率いた実力者として知られている。ビンス・ドゥーリー・ヘッドコーチ体制下のジョージア大時代の 1980 年には、全米優勝を経験(シュガーボウル 対ノートルダム)。このジョージア大時代の 9 シーズンには、7 名のオールアメリカンを含む、23 名のオールカンファレンス守備バックを育て上げた。

ノートルダム大スタッフには 2005 年より参加し、2007 年シーズンを最後に勇退。2005 年フィエスタボウルに出場して全米 9 位、2006 年シュガーボウル出場して 11 位とチームを牽引し、このチームからは今春の NFL ドラフトで SF トム・ズビコウスキがボルチモア・レイバンズに指名を受けた。

今季からはノートルダム大体育局直下のコミュニティ・リレーション・スタッフに就任。1941 年 8 月 5 日、ペンシルバニア州フィラデルフィア生まれ、67 歳。

### クリス・ゾーリッチ(Chris Zorich)

#### 担当: ディフェンスライン

1990 年に全米最優秀守備ラインに贈られるロンバルディ賞を受賞し、1991 年 NFL ドラフトでシカゴに 2 巡(全体 49 位)指名を受けて 6 シーズンにわたってベアーズ守備の最前線で活躍。1997 年にワシントン・レッドスキングズに移籍し、通算 284 タックル、16.5 サックを記録してプロフット・キャリアを終えた。1993 年にはプロボウル出場の実績を持つ。在学時に米文学学士修了し、2002 年に同大ロー・スクールで再び学位を取得した後に出身地のシカゴ地区を中心にした社会奉仕事業を展開しながら、モーティベーショナル・スピーカーとして活躍。2007 年にカレッジフットボール名誉の殿堂入りを果たし、今季からはノートルダム大学体育局で学生による福祉事業プログラムの主任に任命されている。



## ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジエンズ”

### 【今後の主な予定】

4月 16～19日	選手選考トライアウト
7月 16～19日	トレーニングキャンプ



## 日本代表チーム

### ヘッドコーチ：森 清之(もり きよゆき)

日本社会人アメリカンフットボール協会Xリーグに所属する鹿島ディアーズ(=鹿島建設株式会社が有する実業団チーム)ヘッドコーチ。1964年10月30日生まれ、44歳。

愛知県名古屋市立菊里高等学校を経て、京都大学農学部に進学。水野弥一監督率いるギャングスターズの一員となり、1986年、1987年度にライスボウル史上初となる二連覇を達成する同大黄金期を支えるメンバーの一人として活躍した。現役時は185センチ、80キロの体躯でDB、LB、DEなど守備選手としてプレーした。

1988年同大卒業後に一時就職したが、母校に戻ってコーチ業に専念。当時まだ珍しかったプロ・コーチとしての道を模索し続け、主に守備コーチとしての手腕を発揮し続けた。1990～1992年に京大はリーグ3連覇を達成(1991年は関西学院と同率優勝)。1995～1996年にもチーム史上2度目となる甲子園ボウル二連覇に導いた後に、1997年春には欧州プロフットNFLEL アムステルダム・アドミラルズのアシスタントに招聘される機会を得て、初めて母校以外のチームでコーチする機会を得て、同年秋には社会人フットボールチームのアサヒビール・シルバースターと契約。2000年にアサヒ飲料チャレンジャーズ守備コーディネイターに就任、プロ・コーチとしての道を確認たるものとし、同年チャレンジャーを初のライスボウル優勝の栄冠に輝いた。

2001年より現職。過去8シーズンのリーグ戦通算成績は40戦36勝4敗(.900)、ファイナル6トーナメント出場8回、ジャパンエックスボウル出場2回。

2003年第2回W杯ドイツ大会日本代表コーチ、2005年日本代表ヘッドコーチ(対USA ハワイ)、2006年第10回グローバルジュニア選手権デトロイト大会日本代表ヘッドコーチ、2007年第3回W杯川崎大会日本代表攻撃コーディネイターなどを歴任。



## 日本代表チーム

### 【今後の主な予定】

3月	コーチ陣確定
4月～6月	選手選考期間
6月中旬～7月中旬	強化練習



## 日本代表チーム

### 【日本代表の歴史】

日本フットボール界におけるオールジャパン活動は、本場米国との交流を柱に、誕生翌年の1935年(昭和10年)から開始されている。翌年には仰天の米国遠征。こうした先人たちのフットボールにかけた情熱は戦後の活動に受け継がれ、在日米軍チームとの交流に始まり、1971年のユタ州立大来日以降、頻繁な米国大学来日へと発展していった。その交流のたびに技術や根本理念を吸収し、日本フットボール界はオールジャパン活動と共に向上していった。世界的なフットボール普及が加速し始めた世紀末からは、1999年、2003年に開催されたワールドカップにオールジャパンが連続して頂点に立つ栄誉に輝いている。そして2007年7月には、第3回ワールドカップが日本で開催。日本は決勝で初参戦となった米国とオーバータイムに突入する死闘を演じたが、準優勝となった。

### 【これまでの主な戦績】

年	日付	外国チーム			日本チーム	会場	
1935	3/23	南カリフォルニア大	71	—	7	明治大	甲子園南運動場
	3/25	全米軍	73	—	6	全日本	甲子園南運動場
	3/31	全米軍	46	—	0	全日本	神宮競技場
1936	1/3	南カリフォルニア高校選抜	19	—	6	全日本	ギルモア・フィールド
		ルーズベルト高	0	—	0	全日本	ホノルル・スタジアム
1964	12/11	ハワイ大	40	—	0	全日本	ホノルル・スタジアム
	12/18	49ERS(ハワイ大OB)	10	—	28	全日本	ホノルル・スタジアム
1971	12/19	ユタ州立大	50	—	6	全関東	国立競技場
	12/26	ユタ州立大	45	—	6	全関西	甲子園球場
1973	1/7	ハワイ大	31	—	0	全関西	西宮球技場
	1/15	ハワイ大	43	—	0	全関東	国立競技場
	5/27	グアム大	34	—	14	全関西	西宮球技場
	6/3	グアム大	15	—	14	全関東	駒沢第二球技場
1974	1/5	ウェイクフォレスト大	28	—	3	全関西	尼崎市営陸上競技場
	1/13	ウェイクフォレスト大	35	—	0	全関東	国立競技場
	3/24	US All Star	12	—	10	全関東社会人選抜	国立競技場
	3/31	US All Star	34	—	8	全関西社会人選抜	西宮球場
	12/24	ノースウエスタン大	48	—	0	西日本	伊丹スポーツセンター

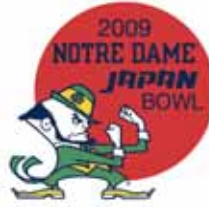


	12/29	ノースウエスタン大	14	-	0	東日本	国立競技場
1976	12/25	コーネル大(軽量級)	9	-	0	全関東学生	国立競技場
1977	1/3	コーネル大(軽量級)	16	-	17	全関東学生	瑞穂競技場
	12/17	ブリガムヤング大	61	-	13	関東学生選抜	国立競技場
	12/24	ブリガムヤング大	71	-	0	関西学生選抜	瑞穂競技場
1989	1/8	ウイリアム&メアリ大	73	-	3	日本学生選抜	横浜スタジアム
	12/23	アイビーリーグ All Star	49	-	17	日本学生選抜	横浜スタジアム
1990	12/24	アイビーリーグ All Star	47	-	10	日本学生選抜	横浜スタジアム
1991	12/24	アイビーリーグ All Star	24	-	0	日本学生選抜	東京ドーム
1993	1/8	アイビーリーグ All Star	68	-	3	学生オールジャパン	東京ドーム
1994	1/8	アイビーリーグ All Star	31	-	14	学生オールジャパン	東京ドーム
1995	1/8	アイビーリーグ All Star	20	-	10	学生オールジャパン	西宮球場
1996	1/7	アイビーリーグ All Star	35	-	16	学生オールジャパン	西宮球場
1998	8/3	フィンランド代表	7	-	39	オールジャパン	東京ドーム
1999	5/16	在日米軍オールスター	0	-	84	オールジャパン	横浜スタジアム
	6/28	スウェーデン代表	14	-	24	オールジャパン	イタリア・パレルモ市*1
	7/1	オーストラリア代表	0	-	54	オールジャパン	イタリア・パレルモ市*1
	7/4	メキシコ代表	0	-	6	オールジャパン	イタリア・パレルモ市*1
2003	2/23	韓国代表	0	-	88	オールジャパン	長居競技場
	6/22	在日米軍オールスター	12	-	88	オールジャパン	川崎球場
	7/10	フランス代表	6	-	23	オールジャパン	ドイツ・ヴィースバーデン*2
	7/12	メキシコ代表	14	-	34	オールジャパン	ドイツ・ヴィースバーデン*2
2005	7/14	USA ハワイ	16	-	20	オールジャパン	東京ドーム
2008	5/20	在日米軍オールスター	0	-	91	オールジャパン	川崎球場
	6/17	在日米軍オールスター	6	-	36	オールジャパン	川崎球場
	7/7	フランス代表	0	-	48	オールジャパン	等々力陸上競技場*3
	7/12	スウェーデン代表	0	-	48	オールジャパン	川崎球場*3
	7/15	アメリカ代表	23	-	20	オールジャパン	等々力陸上競技場*3

\* 1=第 1 回アメリカンフットボールワールドカップ(優勝)

\* 2=第 2 回アメリカンフットボールワールドカップ(優勝)

\* 3=第 3 回アメリカンフットボールワールドカップ(準優勝)



## ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジェンズ”

### 選手プロフィール

#### **ジョー・ブロッキングトン (Joe Brockington)**

**ポジション:** ラインバッカー (LB)

**在学期間:** 2004-2007

ノートルダムでの最初の 2 年はスペシャルチームとして活躍し、その後タックラーとして花開き、最後の 21 試合ではチーム 1 位のタックル数を記録している。在学中にマークした合計 179 タックルの内、実に 166 タックルはその 21 試合で決めたものである。

ブロッキングトンは出場した 47 試合中 20 試合でスターターを務め、12 のロスタックル、2 サック、1 ファンブルリカバー、2 つのパスカットで貢献。2003 年のインサイトボウル、2005 年のフィエスタボウル、LSU と対戦した 2006 年のシュガーボウルに出場している。キャリア最高の試合は、15 タックルを決めた 2006 年の空軍士官学校戦である。

2008 年にはバッファロー・ビルズとドラフト外で契約を交わし、ミニキャンプに参加した。

#### **ジェフ・パリス (Jeff Burris)**

**ポジション:** ディフェンスバック (DB)

**在学期間:** 1990-1993

サウスカロライナ州ロックヒル出身のパリスは、“ホルツ・エラ”の 1990 年から 1993 年までノートルダム大学でプレーした。

4 年生の 1993 年には 3 人のキャプテンの 1 人として、チームを 11 勝 1 敗のシーズンへと導き、大学での最終戦をテキサス農工大とのコットンボウルを制して飾った。その年、パリスはモノグラムクラブにより、チーム MVP に選出されている。

1994 年の NFL ドラフト第 1 巡指名でバッファロー・ビルズに入団後、1997 年までコーナーバック、パントリターナーとして活躍。キャリア 100 回のパントリターンはチーム記録となっている。また、2008 シーズンにロスコー・パリッシュに破られるまで、キャリアでのパントリターン獲得距離 (1,045 ヤード) でもチーム記録を保持していた。

現在はインディアナ州のフィッシャーズ高校で、DB コーチを務めている。

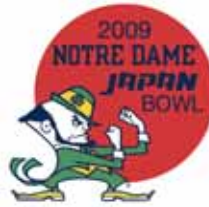
#### **ディーク・クーパー (Deke Cooper)**

**ポジション:** フリーセーフティー (FS)

**在学期間:** 1996-1999

ボウルゲームを含む 47 試合に連続出場し、1999 年にはザ・スポーティング・ニュース誌より全米 8 位のフリーセーフティーにランクされた。最終シーズン終了後は、ブルーグレイ・クラシック・ゲームでプレーした。2000 年にはドラフト外で NFL アリゾナ・カーディナルスと契約。2002 年にはカロライナ・パンサーズと契約し、初めてプレー機会を与えられる。2003 年から 2005 年はジャクソンビル・ジャガーズで 154 タックル、3 インターセプトを記録。2006 年をサンフランシスコ 49ers でプレーすると、2007 年に再びカロライナに戻り、59 タックル、3 インターセプトと活躍した。2008 年にはアトランタ・ファルコンズと契約している。クーパーは 2002 年に NFL ヨーロッパのライン・ファイアーでプレーし、リーグのディフェンス MVP に輝いている。

インディアナ州エバンスビルのノース高校出身で、高校時代はインディアナ州のプレーオフに進んでいる。



### **アンソニー・デンマン (Anthony Denman)**

**ポジション: ラインバッカー (LB)**

**在学期間: 1997-2000**

1997年から2000年までノートルダム大に在籍。1999年と2000年に、毎春恒例のオフェンスとディフェンスによるスクリメージであるブルー - ゴールドゲームで、ディフェンス MVP に選ばれた。4年となりチームキャプテンを務めた2000年には、84 タックル、55 のソロタックル、14 のロスタックル、2つのファンブル誘発(同率)と、複数のカテゴリーでチームトップの記録を残し、チーム MVP も受賞。複数のオールスター戦にも出場した。さらに、フットボール・ニュース誌より独立校のプレーヤー・オブ・ザ・イヤーに、AP 通信が選出するオールアメリカンでは第2チームに選出された。

テキサス州のラスク高校ではチームのスター選手として、ポストシーズンのラッシング記録を樹立した。

デンマンは2001年にクリーブランド・ブラウンズと契約。2002年はバッファロー・ビルズと1年契約を結んだ。

### **オートリー・デンソン (Autry Denson)**

**ポジション: テイルバック (TB)**

**在学期間: 1995-1998**

ノートルダム大学のラッシング記録 4,813 ヤードの保持者。3シーズン連続での1,000 ヤードラッシュを達成した1998年、11月14日の対海軍士官学校戦において、107 ヤードを獲得してアレン・ピンケットの4,131 ヤードの歴代記録を更新した。

在学中に100 ヤード以上を獲得した試合は合計22回で、ピンケットの21回のチーム記録を更新した。タッチダウンは43回、オールパーパスでの獲得距離は5,327 ヤードで、これもピンケットの5,259 ヤードの記録を上回っている。また、デンソンは2年連続で、オールアメリカンの第2チームにも選ばれている。

卒業後は、1999年のNFLドラフトでタンパベイ・バッカニアーズに第7巡指名で入団。マイアミ・ドルフィンズ、シカゴ・ベアーズ、インディアナポリス・コルツで通算5年のNFL経験がある。NFLヨーロッパのライオン・ファイアー、およびCFLのモントリアル・アロエッツでも活躍した。

現在はフィナンシャル・アドバイザーとして主にプロのスポーツ選手を顧客に持つ。

### **クリス・フローム (Chris Frome)**

**ポジション: ディフェンスエンド (DE)**

**在学期間: 2002-2006**

2002年から2006年までディフェンスエンドで活躍。全米大学スポーツインフォメーションディレクター協会による地区学業優秀選手選抜に、2年連続(2005年と2006年)で選出された。最終学年は10試合でスターターとなり、シュガーボウルではLSUを相手に2つのタックルを決めている。キャリア成績は45タックル、1.5サック、8パスカット。

カリフォルニア州のハート高校では、ロサンゼルス・タイムズ紙より州のオールスターにディフェンスエンドとして選出された。シカゴ・サンタイムズ紙には全米トップ91番目の選手にランクされた。2007年にシカゴ・ベアーズとドラフト外で契約を結んだ。

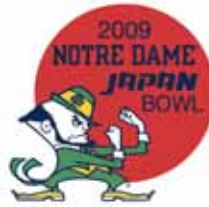
### **ブライン・マッツ (Brian Mattes)**

**ポジション: オフェンスライン (OL)**

**在学期間: 2002-2006**

2002年のノートルダム大学への入学初年度はプレーせず、2003年から4シーズンでプレーした。オフェンスラインの控えとして貴重な役割を果たし、主にスペシャルチームで活躍した。

ペンシルバニア州のワイオミング・バレー・ウェスト高校時代は、AP通信によりペンシルバニア州のオールスターにディフェンスエンド(2年時)、タイトエンド(3年時)で選出される。3年時は70タックル、13サックと、34回のキャッチで400ヤード、2TDを記録している。



**ボブ・モートン (Bob Morton)**  
**ポジション: オフェンスライン (OL)**  
**在学期間: 2002-2006**

ノートルダム大学には5年在籍。2005年にはオフェンスの1試合平均36.7得点、477.3ヤード獲得に貢献。ランニングバックのダリウス・ウォーカーやジュリアス・ジョーンズの活躍を支えた。テキサス州のマッキネー高校では、USAトゥデイ紙により、オフェンスラインとして高校生のオールアメリカン第2チームに選ばれた。またシカゴ・タイムズ紙からは、全米98番目のプレーヤーにランクされた。

**グREG・ポーリー (Greg Pauly)**  
**ポジション: ディフェンスタックル (DT)**  
**在学期間: 2000-2004**

2000年から2004年までノートルダム大学に在学。入学初年度は夏のオールスター戦で膝を怪我したため出場せず、5年目も登録が認められディフェンスラインとして活躍した。5年目は12試合でスターターを務め、37タックル、1サックを記録する。4年時は20タックル、2サックを決め、ボストンカレッジ戦ではそのシーズン米国のリーディング・ラッシャーとなったデリック・ナイトをわずか23キャリアで43ヤードのランに押さえ込んだ。

**ティム・ルディー (Tim Ruddy)**  
**ポジション: センター (C)**  
**在学期間: 1990-1993**

1990年から1993年までノートルダム大学に在籍。4年連続でレターマン(優秀スポーツ選手賞)を受賞し、2年間スターターとしてプレーした。ザ・フットボール・ニュース誌およびAP通信より、オールアメリカンの第2チーム、独立校選抜に選出されている。

1994年のNFLドラフトでは、マイアミ・ドルフィンズより第2巡目指名を受け入団。156試合出場の内、140ゲームに先発出場した(スターターでなかった16試合は入団初年度)。キャリアの大半はダン・マリーノのセンターを務めた。2001年にはプロボウルに選出される。ドルフィンズのセンターとしてプロボウルに選出されたのは、殿堂入りしたドワイト・スティープンソン以来の荣誉である。キャリアの最後の数年は膝の怪我に悩まされ、試合での活躍も限られた。

**フランク・スタムス (Frank Stams)**  
**ポジション: ディフェンスエンド (DE)**  
**在学期間: 1984-1988**

入学時はフルバックとしてプレーしたが、途中からディフェンスエンドに転向しオールスターに選出されるほどに才能が開花。ルー・ホルツ・ヘッドコーチの下、1988年の全米王者に貢献し、オールアメリカンにも選出された。

1986年は怪我で欠場となるが、在学5年目のシーズンではディフェンスエンドとして全12ゲームに先発出場を果たした。ウェストバージニア大学に勝利したフィエスタボウルにおいては、評判の高かったノートルダム・ディフェンスの中核選手として活躍した。

1989年にドラフト第2巡指名でロサンゼルス・ラムズに入団。その後クリーブランド・ブラウンズ、カンザス・シティ・チーフスにおいて、通算7年NFLでプレーした。

現在はオハイオ州のアクロンに妻と二人の子供とともに在住し、アクロン大学のラジオ局のアナウンサー、およびエバンズ保険代理店のバイス・プレジデントを務める。



### **トラビス・トーマス(Travis Thomas)**

**ポジション:**ラインバッカー(LB)/ランニングバック(RB)

**在学期間:**2003-2007

ノートルダムには5年在学。入学当初はランニングバックとスペシャルチームで活躍した。2006年の4年時にスペシャルチームのキャプテンに指名され、同時にラインバッカーに転向。5年時にはチームキャプテンを務めながら、ランニングバックとしてもランによるタッチダウン数でチームトップの成績を残した。

ワシントン高校時代にはスーパープレップ誌のオールアメリカに選出され、2002年にはチームをペンシルバニア州 AA クラス優勝へと導いた。2度 MVP も受賞し、US アーミー・オールアメリカンボウルでは文武両道のアスリートとして表彰された。

トーマスは2008年にクリーブランド・ブラウンズとドラフト外で契約し、トレーニングキャンプに参加した。

### **シェーン・ウォルトン(Shane Walton)**

**ポジション:**コーナーバック(CB)

**在学期間:**1999-2002

ノートルダム大学では、コーナーバックとしてすばらしい活躍を見せた。2001年には、フットボール・ニューズ誌によるプレシーズンの独立校選抜への選出を受け、実際にチーム最多の8つのパスカットを記録しそれに応えた。ピッツバーグ大学戦では、初のインターセプトとファンブル誘発を決めた。また海軍士官学校戦では、NBC/シボレー・プレーヤー・オブ・ザ・ゲームを受賞。2002年には7つのインターセプトでチームをリードし、オールアメリカンに選ばれた。

入学初年度はサッカーにおいても、ノートルダム大学のスター選手であった。10ゴールと7つのアシストでチームをリードし、1992年のビル・ランザ以来初めて、1年生ながらチームの得点王に輝いた。

2003年にドラフト5巡目でセントルイス・ラムズに入団したものの、背中の怪我で試合出場の間機は限られた。2004年にはピッツバーグ・スティーラーズと契約した。

### **レイ・ゼラーズ(Ray Zellars)**

**ポジション:**フルバック(FB)

**在学期間:**1991-1994

1994年に大活躍したランニングバック陣の主要選手。2年生のマーク・エドワーズと二人で絶妙のフルバックコンビを構成し、リンディーズ誌のランキングで全米2位に選ばれる。同年スポーティング・ニュース誌からもフルバックで3位に選ばれ、万能選手としての評判を高めた。シーズン終了後のオールスター戦であるシニアボウルにも出場した。

1995年にニューオリンズ・セインツから、全体44番目のドラフト指名を受け、4年間プレーした。1997年には552ヤード走り4TDを記録。キャリア最高の年となった。

引退後はピッツバーグにある出身校のオリバー高校でコーチとなり、現在はデューク大学でランニングバックコーチを務める。